

自信がない中でもちよつとずつ、ちよつとずつでもいいからやることで、最初は嘘の自信でも、それがほんまの自信になるんやなつて

語り手 東山 真子（高校十一期生 キャビンアテンダント）

聞き手 山田 莉子

学生時代

私は中入生だったので、立守に2013年に入学して、今は社会人三年目の二五歳です。中学の時はハンドボール部で、高校が剣道部でした。まず印象に残ってるのと、今までどんな経験してきたかを簡単に自己紹介しようと思って、中学時代に一番印象に残ってるのはニュージー研修（※ニュージーランド研修）。それをきっかけに、高校では留学にいきたいなと思ったので、高二の時に一年間私費留学で、カナダに行かしてもらいました。オンタリオ州のウインザーっていうアメリカにすごく近いところ。そこで、アジア系のホストファミリー、ホストシスターが三人いる家庭と一緒に暮らしました。留学中は、現地の高校に一年間通っていて。日本に帰ってから立守の海外研修も行きました

（笑）。海外研修はシアトルに行つて。

―シアトル？

今はもうない？

―今はもうないです。どこですか？

アメリカのシアトル

―あつ、アメリカ！ 私も行つたんですけど、アメリカ。シカゴコースに行つてました。

だけ？

―はい。

えっ！ 私の時はシカゴ、シアトル、ボストン、

―ええっ！（笑）

あれ、どこあるんやろ？

―アメリカはAM、GLコースはシカゴコースで、FTがニューヨークに決まってます。他は、ドイツ・ポーランドとか、オーストラリアと、フィンランドと、カンボジアと、色々。

へー、めっちゃ増えてる。

―その時はアメリカだけだったんですか？

その時は、コース毎にクラスが分かれるのが高校三年生からで、高校二年生の時に行きたい研修先を選べたよ。何個あつたかな。シアトル、ボストン、シカゴ、タスマニア。アジアの国もあった。あとは、ヨーロッパの方はなかった。それで私は、シアトルに行つて、スタバの本社でプレゼンしてきた。

―えー！！すごつ、スタバなんですわ。今はマクドと、JALと、シカゴシンフォニーになってます。スタバめっちゃいいですね。

いいでしょ。さっきポーランドって言つたのが、日本語の教育プログラム？

―インターンシップの。

それが、私が高三の時に一期生として募集があつて、それで直感的に「行きたいです！」って思つて、その時二ヶ月間、クラスのもう一人の

女の子と二人で行けることになりました。二ヶ月間ホームステイしながら日本語教師として、日本語学校でインターンシップさせてもらって。

—二ヶ月も！今一ヶ月です。すごい。

二ヶ月間やったから、レベル別のいろんなクラス回って、あとジャパンウィーク（立守の紹介や書道、季節のイベントの体験を企画）とかやって、最後はクラスを任せてもらって授業やったりしてた。ちなみに、高三はグローバルクラスに所属していて、三年間由谷先生が担任でした。

—えっ、そうなんですか。

そう（笑）大学は国関（国際関係学部）のグローバルスタディーズ専攻に進学しました。この専攻の授業は基本的に英語で開講されてるから、英語で授業を受けたり、あとは日本語のIR（※国際関係学専攻）の方の授業を受けたり、外国語はスペイン語をとったり、色々してました。大学に入ってから特に頑張ってたのは、京都のボランティアガイドで。（立命館大学国際関係学部があるキャンパスの）衣笠って、京都のめっちゃ観光地のあるから、外国人観光客にボランティアでガイドしますっていうサークルを見つけて、それに参加してから、もうめっちゃ楽しかった（笑）。あとは、立命館大学に来てる短期留学生とかのサポートをする団体もあって、それに参加してたり、あとは、一回生の後半から、国際寮に住み込みで留学生をサポートしてた。これは、レジデントメンター、RMっていう活動で、GS（グローバルスタディーズ専攻）の一回生とか、あとは半年とか一年とかの短期留学に来てる留学生百人くらいが住んでる寮。そこに、日本人十四人で、留学生が日本で暮らすためのサポート役として一緒に暮らすっていう活動が、大学で募集があつて、それに応募して無事合格したので、約一年弱共同生活を

送っていました。

—OICですか？

衣笠衣笠。大学から歩いて十分のところに寮がある。それで、一年間住めるっていうので、やった！近くなるっていうのもあるし、元々国際交流が好きやったのと、高校在学中は海外に出て色んな国際経験を積んでいたけど、逆に日本のこと知らんなってっていう風感じて、日本でできる国際交流がしたいなって思いました。そこで、大学の時にガイドをやったり、こういう留学生のサポートやったり、今までとは違う方向で国際交流を頑張っていました。ただ、これが一回生まで、二回生からコロナの時期になってしまつて……。この寮もほんまは一年間いる予定やったのが八ヶ月くらいで出ていかなあかんくなって、そのあとはオンライン授業を受けたり、空いてる時間が結構増えたから、「じゃあそれやったらせっかくやし中国語勉強してみようかな。」と新しく勉強を始めたりにしていました。三回生では、IRの方のゼミに入って、多文化共生について探究していました。就職活動の後は、国際物流の会社で総合職として働いていました。

*

現在の仕事

今、転職した後の写真。（写真を見せてもらう）これ香港、これアブリダビ。

—すごい、モスクだー！

モスク行ったよ。CA（キャビンアテンダント）としてデビューするまでに二ヶ月間訓練があつて、そのうち二週間セーフティトレーニング

グがあるんやけど、それが今、香港の自社のセーフティスクールがいっぱいやからアブダビ（アラブ首長国連邦）にある他社の施設で受けることになって（笑）。その後心肺蘇生法とか実技の試験を受けて、サービスの訓練を受けて、ようやく合格してやったーって。（飛行機とともに映るキャビンアテンダントの姿の写真を見せてもらう）

—すごい！私、これ、めっちゃ楽しみにしたんですけど、あの、最近くださったメールを見た時に、「フライトでロンドン行ってきまし

た。」って。フライトって、CA（※キャビンアテンダント）さんの業界用語だから、CAさんかも！って思ってた、

えっ、CAって書いてなかった！？

—書いてないです。

うそお（笑）えっ！？（聞き書きの）エントリーの時に、「私、航空会社で働きまーす！」って言ったけど、CAって言うてなかった？うそやん！（笑）

—前職を今、転職している途中ですみたいのだけ書いて終わってたんですよ。あの、私CAさん目指してるんですけど、

ええっ！まじで！

—だから、「やばい、きた！」と思って、もうめっちゃ楽しみにしてたんですよ。

やったあ（拍手）え、そうなんや。いや、書いてたで？絶対書いてた（笑）ちゃんと書いてたよ、その時もう決まってたから。で、この前サウジアラビア。（砂漠で撮った写真を見せてもらう）めっちゃよかったん。（フライトで寄港地に）行ったら、何日かお休みあるから、観光行ったり。

—えっ、なんかすごっ。CGに見えます、いい意味で。

ほんとにほんとに。あつ、これオーストラリアのブリスベン、これが最近初めてCA全員とパイロットも含めてみんなでご飯行った時の写真。

—すごっ、どこの航空会社ですか？

香港の航空会社。これこの前のロンドン、イエーイ、ちゃんと働いてまーす！（ロンドンにフライトしたときの東山さんの写真を見せていただく）

—かつこいいです！めっちゃ。

え、キャセイパシフィック（航空）って知ってる？

—知ってます！

—そうそう、そこで働いています。

—お仕事を変えられたじゃないですか。変えようと思ったきっかけとは。

変えようと思ったきっかけは、これまでの国際経験を活かしてもっとグローバルに働きたいと思って。前の会社が、国際物流のフォワーダーっていう分野の仕事で、具体的には私は航空輸入の担当やったんやけど、空港に飛行機が着いて、その下に積んでる貨物を日本に輸入して、工場で使うためには通関をしないといけないって、その通関の手続きをスムーズに進めるためにお客さんとやりとりする仕事でした。だから輸入するのはITチップとか、車の部品とかが多くて、でも実際はオフィスワークで、パソコンですーっとカタカタって（笑）。（仕事で使う）システムとかは英語やし、書類も英語で。入社するまではそれがいいなって思ってた、中学高校大学と色んな国際経験積んできて、やっぱ日本と世界を繋げる仕事がしたいなって思ってた。それで貿易やったら、日本と世界を繋げるから、すごいやりたいことと合ってるんかなって思ってた選んだ

けど、実際に働いてみたら、関われるのは輸入してくる中のほんのちよつとで（笑）。実際には英語の書類を扱っていたとしても、やることはルーティーンの仕事が多くて、海外の人と実際に英語を使って会議をしたり、海外に出張とかがあるわけでもないし、周りは日本人の同僚ばかりやったから、「うーん、なんか違うな」と思い始めて。

最初一年目は先輩に教えてもらいながら少しずつできることが増えていって、毎日楽しいなって感じてたけど、まあ一年目の後半、二年目……。結局二年目の半ばに「よっしや転職してみよう！」って決めました。この部署に二、三年いるんやったら、「あつ、それやったらその間に海外行けちゃうな」って思ってた（笑）。

それで、今までCAなるのが夢というわけでもなかったけど、せっかくやれる選択肢があるんやったら、CAとして世界を見てみたいなど思ってたのが、決め手。正確に言うくと、同期が、一人カタール航空のCAに転職してはって、世界中飛んでのを見たときに、他の同期は「うわぁー、〇〇ちゃんすご、でも絶対大変そうや。」みたいな感想を聞くけど、でも私は「めっちゃ楽しそう！この子ができるなら私もできるやん！」と思って、それで今までは雲の上の存在やったCAという仕事がちよつと近くに感じました。それなら今やってみるだけやってみようかなって思ったのがきっかけで、色々な航空会社に応募して、キャセイ（キャセイパシフィックの略）に入ったのは、たまたまほんまにご縁。

最初は、私も中東の航空会社に興味があったけど、一番最初に受けたのがキャセイで、トントン拍子で合格して。特に去年は中東の募集が全然なくて。それやったら日本近いし、ご飯美味しいやろうし、良いかなって思ってた。大学の時に中国語を勉強していたのも、普通に趣味でやってたけど、「あ、活かせるやん。」ってその時今までやってたことが繋

がって、じゃあやってみよって。

やっぱり高校の時に留学とか、ポーランドのプログラムとか、短期のイベントとか、立守で色んなことに挑戦させてもらったからこそ、新しいチャンスがあった時に、「あつ、じゃあやります！」みたいな感じで、そういうチャンスを逃さない力がついたのかなーと。大学でも色々な活動に参加できたりとか、転職の時も、もしかしたら他の人やったらリスク考えてとか、なかなか行動に移せへんかもしれんけど、でも、とりあえずやってみたら何か得られるっていうのは、もうこれまでの経験からわかってたから、それやったらやってみようって自分を信じられたのは、やっぱり結構高校の時の色んな活動があったからかなって。

*

高校時代の思い出

――立守通して全体での思い出はありますか？

中学の時は、ハンドボール部の部長として部活に打ち込んでいました。その時、特に顧問の白井先生のご指導があったおかげで、全国大会にも行けました。（同学年の部員が）四人しかいいひんのに全国大会行けたっていうのが結構難しくて、ハンドボール七人やから。後輩の力とかも借りての出場やったから、それで行けたの結構奇跡やって今でも思い出に残っています。あと、中学の部活でめっちゃ大変やったから、その経験があるから、留学に行った時も、「いや、あの時ほど大変じゃないな。」と思って乗り越えられました。初めは言語伝わらへんくて大変やけど、今やりたいことをやらしてもらってるし、「これは成長するチャンスや！」みたいな感じで、前向きに頑張れたのは絶対、中学の時に

部活で必死に頑張ってたからやなって思います。逆に留学も留学で色々大変な時期もあったから、それがあつたおかげで、大学で授業が大変な時も「頑張ろう!」と思えたし、やっぱりそういう大変な時期があつたからこそ、その度に成長できてるなっていうのは感じるかな。

―大変な時にどうやって対処してるとかありますか？

うーん、大変な時かー。これでもポジティブな方やけど、結構大変な時は落ち込んだり。あーもう何もできひんって思う時もあるけど、今でできることをちよつとずつやるかな(笑)。CAなるって決めた時も、今から振り返ったらトントン拍子で進んだけど、ほんまになるって決めた瞬間はめっちゃ空元気みたいな、空自信みたいな。みんなには、「よし、私になります!」って言ってるけど、その反面「いや、ほんまになれるんかな、絶対なれへんのちゃうか。」っていうのが心の中で混ざり合うみたいな感じやって、でも何からしたらいいかわからへんし、どうしたらいいかわからへんけど、とりあえずまずは(エントリー用の)写真を撮りに行く、まずはレジュメ(履歴書)を作るとかで、一個一個やって行ったら、これ行けるかも知れへんみたいな小さな自信につながって、面接も最後、もうここまで来たんやったら大丈夫やって思えることができて、やっぱり何でも最初は自信が無いんやなっていうのは実感したけど、でもその自信がない中でもちよつとずつ、ちよつとずつでもいいからやることで、最初は嘘の自信でも、それがほんまの自信になるんやなっていうのを、CAの転職やってる時に思った。

あつ、話逸れたけど、立守全体の印象に残ったこと……。高校は、留学生たちと毎朝登校して。

―あつ、そうなんですか!?

近かったから、毎朝一緒に登校して、朝、授業が始まるまで廊下のス

ペースで喋って、帰りも一緒に帰るみたいな。あの時めっちゃ楽しかったなって思う。

―自分から声かけて、ですか？

そうそうそう。留学から帰らたての時、最初、「喋りかけたいな、でも変な人と思われたらどうしよう。」みたいにめっちゃ躊躇する期間が二日くらいあつて。学年に二人留学生がいて、ノルウェーからと、フィンランドから。でも、どう考えてもその留学生同士でしか喋ってなくて、だから絶対喋って友達になりたいと思って。あれいつ声かけたんやろ、図書館でかな。なんか勉強してはったのを見たときに、勇気出して声かけに行つて、そしたらそつから仲良くなつて、それで留学生は留学生を呼ぶって言うやん?その一こ下の学年の留学生とも仲良くなつたりして、よく立守から守山駅まで歩いて帰ったりして、それが楽しかったかな。

*

これからの展望

―これから自分自身でやりたいことはありますか？

やりたいことは、言語ってやっぱり武器になると思ったから、マンダリン(標準中国語)をもうちよつと上達させて、ここに(CAの勤務しているときにつけるネームプレートのようなもの)、「日本語・標準中国語」って書きたい(笑)。

―あるんですか?喋れる言語みたいなの。

あるある。そう、喋れる言語をバッジに書いてるから、それでマンダリンって書きたいなっていうのと、あとは日常生活で使えるくらいの広

東語（※中国広東省や香港で主に使用される言語）を勉強してみたいなと。日本で働いてたときよりも自由な時間があるから、外国人に日本語教えるのをもうちょっと勉強したいとか、あとは色んな世界各地を飛び回って、色んな景色とか、人とか、文化の違いとかを実際に見たいなって思っています。

—ありがとうございます。これでインタビューを終わらせていただこうと思います。わあすごい、二時間近く。貴重な時間をありがとうございました。これ（東山さんがインタビュー日の直近のフライトで訪れたロンドンのお土産）もありがとうございます。

ありがとうございます。大丈夫？進路相談とか、オフレコでも全然（笑）

感想

東山さんとのお話を通して、興味を持ったことにひたむきにチャレンジする学生時代を過ごしたことによって、その経験が人生の転機において後押ししてくれる「自信」につながっていくという例を真正面で実感することができた。私の目標とする職業に就いておられる方と、このようにお話する機会がとても貴重で、夢のような時間だった。今は未来の自分のために挑戦を恐れず、未来では過去の自分を信じることができるように、自分のしたいこと、すべきことに真っ直ぐに向き合っていきたい。



右：語り手 東山 真子 さん
左：聞き手 山田 莉子